

令和8年度 後志地域づくり連携会議（羊蹄山麓ブロック）議事要旨

日時：令和8年7月13日（月） 13：00～15：00

場所：蘭越町 昆布活性化センター 多目的ホール

出席者（構成員等）

蘭越町長、ニセコ町副町長、真狩村長、留寿都村長、喜茂別町長、京極町長、倶知安町副町長、ようてい森林組合長、ニセコリゾート観光協会代表取締役、倶知安観光協会長、後志総合振興局長、小樽開発建設部長

議事

- （１）地域づくり推進ビジョンの進捗について
- （２）道央広域連携地域政策展開方針の進捗について
- （３）地域課題への対応状況について
- （４）意見交換
- （５）その他

意見交換 ―後志で働く人を増やすための市町村の枠を超えた連携―

●蘭越町 金町長

町の移住相談窓口でニーズと合致しない場合、結果として後志全体から貴重な人材を取りこぼしているのではと考えている。蘭越町でだめでも他町村のニーズと合致するかもしれない。

「働く場所がある町」（倶知安町やニセコ町）と「住む場所がある町」（近隣の町村）と捉え、羊蹄山麓を一つの生活圏として連携してできないか。

① 仕事と人材、住宅情報等の共有

LoGo チャット等を活用して羊蹄山麓でグループを作り、仕事情報や空き家情報を提供する仕組みを検討。

② 後志主体で移住・定住相談会の開催

●ニセコ町 山本副町長

地域おこし協力隊とは別に「特命委託型地域おこし協力隊（公共交通の担い手や除雪の担い手等、企業が3年後に雇用する前提で町が委託）」を募集しているが、実績なし。

住宅さえあれば人を確保出来るが、住宅がない。町内の住宅不足解消に向け、特区制度を使って、国等の大型公共事業に伴う仮設住宅を利活用できないか。

地域おこし協力隊OBに、移住定住の相談員の窓口をお願いしたり、移住フェアにも出してもらったりしながら、移住・二地域居住の取り組みを進めているところ。

●真狩村 岩原村長

農業の現場では、労働力不足が大きな課題。外国人実習生等の労働力が不可欠となっている。働く人は農家が直接見つけてきて、これから夏に向け 150 人位来るが、住む場所がない。公営住宅の制限緩和や、旧校舎などを修繕して使う際の補助などお願いしたい。

花壇の手入れや街の清掃をしてくれるような高齢者の方も減ってきている。

冬にリゾートホテルで働く人材が、夏になると帰ってしまうと以前は言われていたが、最近はどうなのか。公営住宅の申込みは多い。これから住宅がどれだけ必要かもわかると思うので調べてみてほしい。

●留寿都村 佐藤村長

ニセコ地域においては、ニセコ観光圏という圏域を 3 町で作っており、整備計画も進んでいると思うが、その圏域を羊蹄山麓全体に広げてほしい。

羊蹄山麓の中で、それぞれの地域に働きに行く人たちの住む場所をどこかの町に作り雇用を確保していかないと、町村の差が開き、羊蹄山麓や後志地域全体が活性化していかないのではないかな。

人口減少の中、日本人の引っ張り合いは限界がある。いかに冬場の外国人を夏場にも働いてもらえるか考える必要がある。

観光地で働く若い人への、地域の文化、食の体験、農業体験などの「おもてなし」を地域住民（中高齢者）が担っていき、羊蹄山麓や後志全体で広域的に周遊していく仕組みを作っていかなければならない。

●喜茂別町 林町長

本町も外国籍の方が多く登録されており、自身のネットワークを通じて本町で住宅を購入し、定住される方々が多くなってきている。

また、リゾートで働き、本町に住まいを構える、蘭越町が話していた働く場所と住む場所が別で良いという生活圏の姿が、行政が仕掛けるよりも先に現実的になっている。

●京極町 佐古岡町長

冬のリゾートと夏の農業、林業、製造業を上手く組み合わせて、一年間通して働くような仕組みができないか。例えば後志総合振興局の「後志空き家バンク」をうまく使って住める場所、あるいはワンストップの窓口ができればいいのではないかな。

町として、いままで民間アパートの建設に限り補助金を出していたものを、今年から社宅の建設にあたっても補助金を出している。

町有地に民間アパートを建設するなら、町有地を安く売るという取り組みを始めようとしている。京極町に住みたいと思えるようなアパートを建設するというコンセプトで進めており、町有地を有効に活用しながら、住環境の整備を行っている。

公営住宅は空き家が出ても改修や修繕が間に合わず、なかなか回転がうまくいってない状況。入居制限もありすぎて町外の方にはハードルが高く、せっかく人材を見つけてきても住む場所がないということもあるので、法改正含め、皆さんが住みやすい環境を作っていく必要がある。

●倶知安町 菅原副町長

令和6年に商工会議所、北海道科学大学と地域包括連携協定を結び、地域と地元企業のPR活動を通じて地元への就職につなげる取り組みを実施しているが、働く場所があっても住む場所がなく、さらに家賃が高額ということで、近隣町村から通勤する方も少ない。

本町は観光業で働くスタッフの通年雇用が難しく、11月から3月までの5ヶ月間だけ外国籍の人口が年々増加している。外国人労働者を通年雇用するためには、住居と移動手段の確保が重要で、近隣町村との連携が必要である。

今年度、商工会議所と連携して、冬の観光業を除く町内で働く従業員の住居がどの程度不足しているのか、いまの建設コスト高騰の時期に何か良いアイデアがないか等、アンケート調査を行って基礎資料を揃えようと進めているところ。

●ようてい森林組合 有末代表理事組合長

令和2年、旭川に北の森づくり専門学院ができ、4年間で卒業生が林業の現場に新規就労として100名ほど従事している。今後も人材育成の場として大いに期待している。

特定技能実習生は農業が多く、林業はまだ少ない。ようてい森林組合にも2名受け入れ予定だが、入国管理制度が変わった影響なのか、まだ来ていない状況。

外国の方々に定住してもらえるように、働く場所、住む場所について、町村間で情報交換できる場所が1箇所あればよいのではないかな。

●ニセコリゾート観光協会 下田代表取締役

リゾートには冬だけで、倶知安町であれば3,000人の外国人が増え、ニセコ町にも500人いるが、春になると帰ってしまうため、こうした外国の方々が残って、定住して、世帯を築いていくことに結びつけられないかな。

また、バスのドライバーや教育福祉、除雪などのエッセンシャルワークの方々をいかに育てていけるか柔軟な考え方が必要。

ここに住んで良かったと思ってもらえるような「ローカルプライス」の導入、例えば羊蹄山麓の住民が、エリア内のどの町村の温泉も安く入れるだとか、スキー券もローカルプライスで購入できるだとか、買い物・食事といった地域体験にかかる費用をいかに魅力ある設定にしていけるかがチャンスになるのでは。

地域交通に関しても、各町村の今あるデマンドバスのものを町境、村境を越えてリレーできれば、倶知安厚生病院に行ける場所も増えるのではないかな。

●倶知安観光協会 二川原会長

どのように労働力を確保し、住民を増やしていくかは、観光においてもメインテーマになっている。定住してもらうきっかけとして、住んでみたいと思える魅力が重要。

倶知安町の「Kutchan ID+（デジタル町民証明）」は、地域のスーパー等で5%相当の割引が受けられ、地域住民が観光の恩恵を実感できる施策となっている。このような枠組みを、羊蹄山麓、後志全体でできないかな。

なおかつ、ニセコのスキー場などで、まずは住んでいる人を対象として、ユナイテッド

パスを半額ぐらいにできないか。夏だけ買える、申し込める券にすれば、住んでいる人限定になる。これらを後志全体に拡げて「後志ユナイテッドパス」といった取り組みを進めるのはどうか。

外国人のワーキングホリデー後、定住のパターンは農家と結婚、起業、就職などがある。今は自然発生的だが、マッチングの仕組みをつくり、サポートしてあげれば定住者が増えるのではないか。

●蘭越町 金町長

国や道、各町村の公共施設を使ってスポーツの試合や合宿を誘致できないかと思っている。夏場は宿泊施設がいっぱいあるので、後志にある公共施設を情報発信し、誘致するといった連携ができれば、通年で働く場所ができるのではないか。

●倶知安観光協会 二川原会長

後志全域で考えると毎週のようにどこかでイベントをやっている。そこに案内できれば良いが、倶知安観光協会は倶知安の事業者に関わるものしか案内できない。そういった垣根を取っ払うきっかけを振興局のワンストップか何かを通じて、シンプルな形で繋げることができないか。

冬の間働きに来ている日本の方限定で、その期間に移住フェアを直接的にやってしまえば、手間もコストも少なく費用対効果を含めるとすごく良いのではないか。夏も居たいという方は結構多いが、仕事を見つけられないので、そこを支援してあげれば良いと思う。2月までしか居ない人は目的がパウダースノーに特化している人であり、実は3月以降に居る人は本当にここが好きというパターンが多い。3月に職を失う人に、2月後半もしくは3月のタイミングで働き口や住む所の話ができれば良いと思う。

●喜茂別町 林町長

春先までスキーをやっていた方々は、アスパラガスの収穫はできる、その後のブロッコリーの収穫もできる、米やじゃがいもの収穫もできるが、「絹さや」の収穫の時期になると辞めていく方々が多い。この「絹さや」がなかなか重労働だと農家の方から聞いている。農作業1つにしても、作物で変わってくるので簡単ではない。

●真狩村 岩原村長

結婚が1番良い定住かと思う。農家に来た実習生と結婚するパターンもある。振興局でマッチングみたいなことを考えるのも良いのではないか。

●留寿都村 佐藤村長

ルスツリゾートで「ルスコン（夜の遊園地貸切り大合コン）」を昨年の秋に開催し、何千人も参加していた。今年も春に開催して約2,000人が参加。